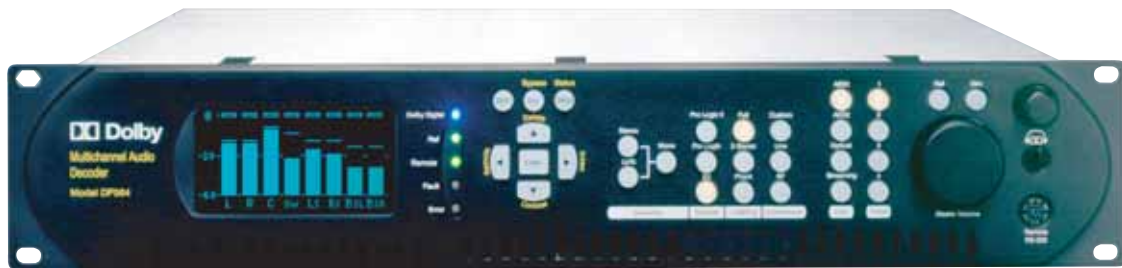


Dolby®

DP564 マルチチャンネルオーディオデコーダ



一般家庭での視聴用に高品位な音質を提供するためには、プロダクションサイドでの厳密なモニターが必須です。DP564マルチチャンネルオーディオデコーダは、DTV放送、ポストプロダクション、DVDオーサリング現場での完璧な品質管理用モニターツールです。

DP564は、ドルビーデジタルサラウンドEXやドルビープロロジックIIを始めドルビーデジタル、ドルビーサラウンドプロロジックやPCM音声トラック作品のデコード及びモニターを可能にし、ドルビーデジタル及びドルビーサラウンド用の理想的なデジタルリファレンスデコーダとなっています。

DP564ではドルビーデジタルの独特なダウンミックス機能、リスニングモード、コンプレッションモードの選択やモニタリングが簡単に行えます。コンテンツ制作者や配給者はオリジナル素材である5.1チャンネルから変換されたドルビーサラウンド、あるいは2チャンネルステレオ、またはモノラル音声がどのように再生されるかを検証することができます。

DP564は広範囲にわたるモニター用設定機能やモニター環境の調整機能(フロントパネルマスターボリューム、チャンネルミュート、基準モニターレベル、各チャンネルごとのレベル補正、センターチャンネルディレイ、サラウンドチャンネルディレイ、ベースマネージャコントロール、及び全帯域/帯域制限ピンクノイズ)を提供します。

ドルビーデジタルについて

ドルビーデジタルは、聴覚マスキング効果とチャンネル内及びチャンネル間両方の冗長性を利用して高音質デジタルオーディオの効率的な保存と伝送を実現する、知覚型オーディオ符号化アルゴリズムです。

ドルビーデジタルでは、民生用サラウンドサウンドフォーマットである5.1チャンネル/384~448kbpsやステレオプログラム用の2チャンネル/192kbpsなど、チャンネル数とビットレートとの組み合わせを、個々のアプリケーションに応じて適宜決められるようになっています。また、民生用ドルビーデジタルデコーダはマルチチャンネルビットストリームをモノ、ス

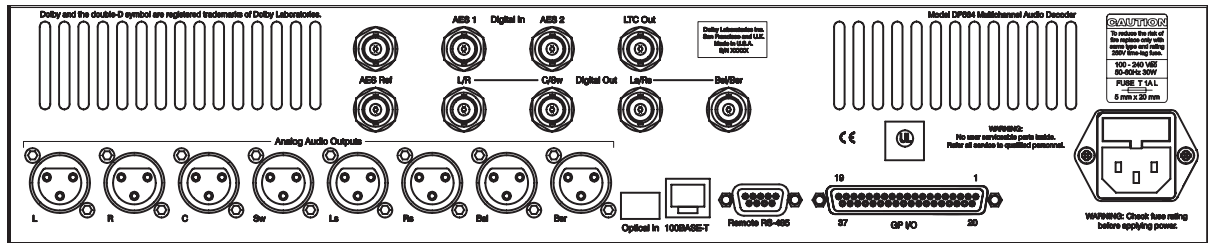
ヘッドフォン出力用の専用ボリュームコントロールと一般的なヘッドフォンでサラウンド音響をモニターするドルビーヘッドフォン機能を備えており、リスナーに負担をかけずに適切なモニター環境を提供します。

DP564への信号入力(2つのAES3、Toslink、及びRTP (Real-time Transfer Protocol)でストリーミングしたドルビーデジタルオーディオのためのイーサネットポート)はフロントパネルで簡単に選択できます。フロントパネルには大型のVFD表示があり、すべてのドルビーデジタルメタデータ設定、ダイナミックレンジコントロールデータ、出力レベルメーター表示が直感的なユーザーインターフェースと視認性の高いグラフィックで確認できます。

リアパネルにはデジタル及びアナログ出力があります。タイムコード(LTC)出力により、DVD制作者はドルビーデジタルでエンコードされたオーディオとビデオ(圧縮前)の同期をチェックすることができます。フロントパネル・リアパネルのシリアルインターフェース及びイーサネットポートは、PCからのリモートコントロール及びソフトウェアのアップデートに利用できます。リモートコントロールはハードウェアコントロール(ドルビーCat. No. 549) またはGPI/O ポートを使用する外部機器からも可能です。

DVD及びDTV用にドルビーデジタル素材をエンコードするには、ドルビーDP569マルチチャンネルドルビーデジタルエンコーダがDP564との組み合わせとして理想的です。

テレオ、またはドルビーサラウンドにダウンミックスして再生することが可能であり、幅広いリスニング条件において完全な互換性を実現しています。マルチチャンネル符号化システムとして考案されたドルビーデジタルは、1992年に映画音響用としてデビューしました。それ以来、優れた音質と帯域利用効率、柔軟性の高さなどの理由から、レーザーディスク、DVDでのマルチチャンネルオーディオの国際規格、ATSCデジタル放送テレビとSCTEデジタルケーブルテレビのオーディオ規格などに採用されてきました。また、DVBを始めとする衛星放送システムでも利用が拡大しています。



仕様

オーディオ符号化アルゴリズム	ドルビーデジタル、ドルビーサラウンドプロロジック、ドルビーデジタルサラウンドEX、ドルビープロロジックII、ドルビーヘッドフォン
オーディオ入力サンプリングレート	32, 44.1, 48, 88.2, または96 kHz
オーディオ出力サンプリングレート	32, 44.1, または48 kHz
周波数特性	デジタル出力: 20 Hz~20 kHz, 0.01 dB アナログ出力: 20 Hz~20 kHz, 0.5 dB 20 Hz~10 kHzで0.02%以下
歪率	106 dB以下
ダイナミックレンジ	+6~-20 dBまで0.125 dB刻み
トリムレベル調整	1 kHzで-100 dB以下
クロストーク	BNCメスx2、不平衡、AES-3ID-1995 (SMPTE 276M)に基づき 75 Ω、光ファイバー用Toslinkコネクタ
デジタルオーディオ入力	ドルビーデジタル(AC-3): ATSC A/52 Annex Bで規定された IEC 61937フォーマット PCM : AES3フォーマット
AESリファレンス信号入力	BNCメス(ループスルー)、不平衡、75 Ω、信号レベルはAES3-ID に準拠
デジタルオーディオ出力	BNCメスx4、不平衡、AES-3ID-1995 (SMPTE 276M)に基づき 75 Ω
アナログオーディオ出力	0 dBFS = +24 dBu; 平衡浮動; 3ピンオスXLRコネクタx3、 24ビットDAC
ヘッドフォン出力	50 Ω 公称値で最大出力+7 dBu; 1/4インチ標準ステレオヘッドフ オン端子; レベル調整
リアタイムコード出力	SMPTE 12M-1995x1、BNCメス、不平衡、公称出力信号1 V _{p-p} 出力インピーダンス50
シリアルリモートコントロール入力/出力	フロント: RS-232、ミニDIN8ピンメスリア: RS-485、D-SUB 9ピンメ ス(SMPTE 207M準拠)
汎用入/出力(GPI/O)ポート	D-SUB 37ピンメス(TTL互換)は、どの極性でもレベルまたは エッジ感度に設定可能
イーサネットポート	10/100ベースT型(自動検出); RJ-45メス
フロントパネル表示	128x64ピクセル蛍光表示管ディスプレイ(VFD)
ボリュームコントロール	マスターボリュームコントロール(大) ヘッドフォンボリュームコントロール(小)
ダウンミックスモード	Lt/Rt、ステレオ、モノ
リスニングモード	Full、3chステレオ、ファントム
DRCモード	カスタム、ライン、RF; カスタムモードはパラメータ調整可能
テストノイズ	自動: 広帯域か帯域制限付のピンクノイズを使用チャンネルを2 秒間隔で出力 手動: トリムレベルモード時に選択したチャンネルにノイズを出力
電源仕様	90~264 VAC、50~60 Hz、自動切換え、最大消費電力40 W; 集中電源ソースから動作可能
サイズ及び重量	2-Uラックマウント: 88x483x376 mm 本体重量: 4 kg

コンチネンタルファーイースト株式会社 業務機器販売部

〒106-0032

東京都港区六本木3-18-9コンチネンタルビル TEL: 03-3583-8451 FAX: 03-5572-6742 E-mail: proaudio@cfe.co.jp